

である。図 2 のように、右上のリストから何か一つ (a_i とする) を選択すると、二次元空間上に固定されたデータの上に人のアイコンが重なる。これは「 a_i に対して誰がどのような関連付けを行ったか」を意味している。左下のリストから人アイコン (P_{Taro} とする) を選択すると、「Taro が行ったすべての関連付け」が表示されることになる。 a_i に着目する場合と P_{Taro} に着目する場合で、データセット間の関係を 2 通りの視点から見るができる。また、各種アイコンの表示サイズや表示・非表示、表示モード(重ねて表示・タイル状に表示)選択等は、ユーザの見たいような見方で可視化結果を表示するために用意されている。

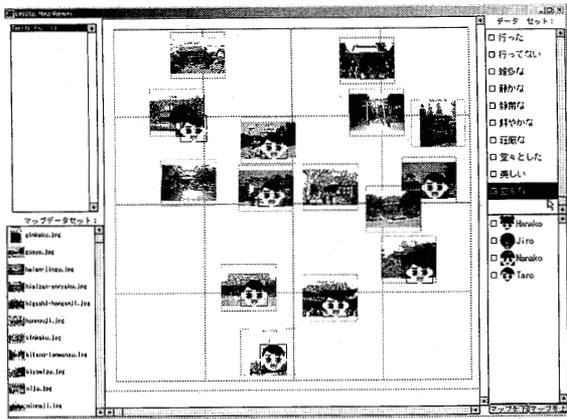


図 2 Map Viewer

従来の EVIDII システムでは、システムの利用者が同一組織内のユーザであると想定していたために、異なる組織に属する人とのデータ共有が困難であった。EVIDII+ システムではこの問題を解決するために、システムの利用にクライアント/サーバ型モデルを採用した(図 3)。EVIDII+ はユーザの役割にあったランタイムアプリケーションと、調査告知用の Web Page を自動作成する(図 4)。

- Super Manager・・・調査設定者および調査参加者から送られてくるデータをマージし、Web Page の更新を行う。
- Survey Managers・・・調査設定者。二つのデータセットとそれに基づく Map を設定する。
- Participants・・・調査参加者。設定された調査に回答する。
- End Users・・・調査結果を閲覧する。データを追加・修正することはできない。

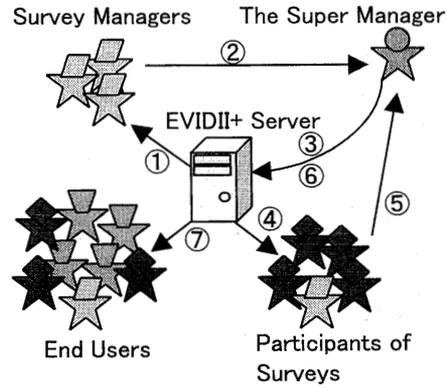


図 3 EVIDII+ の利用手順

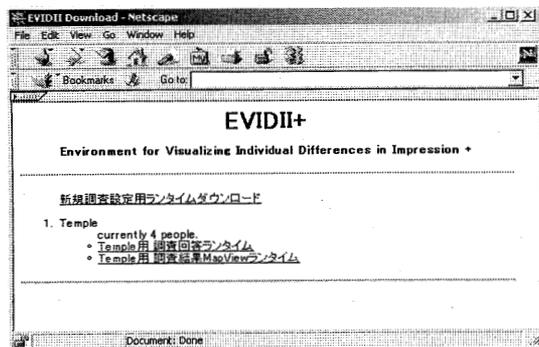


図 4 自動作成された告知用 Web Page

謝辞

本研究における理論的枠組みの構築、システム的设计、評価、および考察を行うにあたって多大なるご協力を頂いた高田眞吾氏、Brent Reeves 氏および杉山仁彦氏に心より感謝の意を表す。

参考文献

[1] M. Ohira, Y. Yamamoto, K. Nakakoji, An Environment for Constructing Shared Understanding through Visualizing Differences of Impressions, Proceedings of the International Symposium on Future Software Technology (ISFST-99), Nanjing, China, Software Engineers Associates, pp. 113-118, October, 1999.

[2] K. Nakakoji, Y. Yamamoto, K. Sugiyama, S. Takada, Finding the "Right" Image: Visualizing Relationships among Persons, Images and Impressions, in Designing Effective and Usable Multimedia Systems, A. Sutcliffe, J. Ziegler, P. Johnson (Eds.), Kluwer Academic Publishers, The Netherlands, pp.91-102, September, 1998.